

シナイ出発

民数記 10・1～28

2018. 11. 18 熊取教会

5 ¹主はモーセに仰せになった。²銀のラッパを二本作りなさい。それは打ち出し作りとし、共同体を呼び集めたり、宿営を旅立たせるために用いなさい。³二つとも吹くときには、共同体全体があなたのもとに、臨在の幕屋の入り口に集まる。⁴一つだけを吹くときには、イスラエルの部族の長である指導者があなたのもとに集まる。⁵あなたたちが出陣ラッパを吹くと、東に宿営している者が旅立つ。⁶二度目の出陣ラッパを吹くと、南に宿営している者が旅立つ。彼らの出発に際してはラッパを吹く。⁷会衆を集めるときもラッパを吹くが、出陣ラッパは鳴らさない。⁸ラッパを吹くのは、祭司であるアロンの子らの役目であって、それはあなたたちが代々にわたって守るべき不変の定めである。⁹あなたたちの国に攻め込む敵を迎え撃つときは、出陣ラッパを吹きなさい。そうすれば、あなたたちは、あなたたちの神、主の御前に覚えられて、敵から救われるであろう。¹⁰また、あなたたちの喜び祝う祝日、毎月一日には、焼き尽くす献げ物や和解の献げ物に向かってラッパを吹きなさい。そうすれば、あなたたちは、あなたたちの神の御前に覚えられる。わたしはあなたたちの神、主である。

15 ¹¹第二年の第二の月の二十日のことであつた。雲は掟の幕屋を離れて昇り、¹²イスラエルの人々はシナイの荒れ野を旅立った。雲はバランの荒れ野にとどまった。¹³彼らは、モーセを通してなされた主の命令によって、初めて旅立った。¹⁴まず、ユダの人々はその宿営の旗を先頭にして、部隊ごとに出発した。その隊長はアミナダブの子ナフション、¹⁵イサカルの人々の部族の隊長はツアルの子ネタンエル、¹⁶ゼブルンの人々の部族の隊長はヘロンの子エリアブであつた。¹⁷幕屋を畳むと、その幕屋を運搬するゲルシヨンの子らとメラリの子らが出発した。¹⁸次に、ルベン族がその陣営の旗を先頭にして、部隊ごとに出発した。その隊長はシェデュウルの子エリツル、¹⁹シメオンの人々の部族の隊長はツリシャダイの子シェルミエル、²⁰ガドの人々の部族の隊長はデウエルの子エルヤサフであつた。²¹その後で、聖なる祭具を運搬するケハト人が出発した。彼らが到着する前に、幕屋が建てられることになっていた。²²次に、エフライムの人々はその陣営の旗を先頭にして、部隊ごとに出発した。その隊長はアミフドの子エリシャマ、²³マナセの人々の部族の隊長はペダツルの子ガムリエル、²⁴ベニヤミンの人々の部族の隊長はギドオニの子アビダンであつた。²⁵全陣営のしんがりとして、ダンの人々はその陣営の旗を先頭にして、部隊ごとに出発した。その隊長はアミシャダイの子アヒエゼル、²⁶アシエルの人々の部族の隊長はオクランの子パグイエル、²⁷ナフタリの人々の部族の隊長はエナンの子アヒラであつた。²⁸このような順序でイスラエルの人々は部隊ごとに旅立った。

25

【はじめに】

今日は第三週ですので、旧約聖書に従って学びます。今日は民数記第十章から。テキストの前半は銀のラッパ。後半は、シナイ出発です。

30 【銀のラッパ】

はじめにこうあります。¹主はモーセに仰せになった。²銀のラッパを二本作りなさい。それは打ち出し作りとし、共同体を呼び集めたり、宿営を旅立たせるために用いなさい。

イスラエルの出発にあたり、主がモーセに、銀のラッパを二本作れ、と命じられました。この銀のラッパの音色が知りたくて、ネットの動画を調べました。「銀のラッパ」×「音色」で検索すると、幾つも見つかったのは、豆腐屋のラッパの動画でした。プー・プー↑ (トーフー) というものです。しかし肝心の銀のラッパは出てきません。そこで、さらに、「民数記」という言葉を加えて探すと、「音楽礼拝」や「オペラ」が出てきました。英語で、numbers trumpets とすると、近いものがたくさん出て来ましたが、英語の礼拝や、説教などがほとんどで、トランペットの音はわかりません。しかし、「two silver trumpets」という言葉が何度も出てきました。キーワードで

35

す。そこで、「two silver trumpets」で検索すると、それだけで、民数記10章がヒットしました。たくさんの動画の中に、一つ、ユダヤの祭りらしきものが出てきました。ラッパが吹き鳴らされ、集まった人々が歓声を上げている。ラッパは、1m 以上もある、細くまっすぐな円錐で先が普通のラッパのように開いています。予想していたよりも長い。ラッパには、英語で「ユダヤ」と書かれた旗、バナナというのでしょうか、それがついています。同じ長さ、同じ音色の二本のラッパ。音色はトランペットと同じです。それらを、二人のラッパ手が吹き鳴らしています。今日のテキストでそれをするのはアロンの子孫の役目です。

動画の中で吹きなられていたのは二本のラッパでしたから、今日のテキストによれば、「みんな集まれ」「幕屋の前に集合せよ」という合図かなと思いました。昔見た映画の「ベンハー」や「クオ・ヴァデス」で、競技が始まるときとか、行進が始まるときに、ラッパが吹き鳴らされます。そのときラッパ手は、並んで、揃って、一斉に吹き鳴らしています。

けれども見た動画では二人のラッパ手が、音の高さも長さも、リズムもバラバラで、筒先を思い思いの方向に動かしながら、大きな音で吹き鳴らす。メロディーはありません。音だけ。その音に、人々が歓声をあげ、手拍子をし、拍手をし、喜んでい。祭りだから賑やかだったのでありましょう。したがって今日のテキストのラッパの鳴らし方と同じかどうか、わかりません。しかし理解のヒントにはなります。二本の銀のラッパが吹き鳴らされるのは同じです。音やリズムをそろえるより、それぞれ別々に吹く方が、二本のラッパが鳴らされていることがはっきりとわかります。筒先の向きも、皆を集めるのですから、できるだけいろいろに向きを変えながら吹く方がよいでありましょう。そういったことを思いながら、動画を見ました。

【ラッパの使い方】

今日のテキストを見ると、ラッパの吹き方には、3通りあります。集合ラッパ、出陣ラッパ、そして祝日の献げ物のラッパ。集合・出陣・奉獻のラッパ。ラッパを吹くのは、アロンの子たちだと8節にあります。彼らの専らの仕事です。アロンの子とは、祭司です。幕屋に務める祭司がラッパを吹く。こうして、ラッパによって、神の命令が人々に徹底される。そこで、この、集合・出陣・奉獻のラッパの合図について、もう少し詳しく見てまいりたいと思います。

【集合ラッパ】

まず、集合の合図のラッパ。これは二種類。二つのラッパを³二つとも吹くときには、共同体全体があなたのもとに、臨在の幕屋の入り口に集まる。⁴一つだけを吹くときには、イスラエルの部族の長である指導者があなたのもとに集まる。

神の幕屋の前にいるモーセのところに、人々を呼び寄せるラッパ。二本のラッパが吹き鳴らされるときは、民全員が、幕屋の前のモーセのところに集まる。一本だけのときは、部族の長たちが集まる。集合のラッパは、吹き鳴らされているラッパの数で判断する。先ほど言いましたように、二本のラッパがそれぞれ別の音をだしていれば、一本であるか二本かはすぐわかります。

【出陣のラッパ】

次は出陣ラッパ。出陣の準備をして待っているイスラエルの民に、出発を告げるラッパです。⁵あなたたちが出陣ラッパを吹くと、東に宿営している者が旅立つ。⁶二度目の出陣ラッパを吹く

と、南に宿営している者が旅立つ。彼らの出発に際してはラッパを吹く。⁷ 会衆を集めるときもラッパを吹くが、出陣ラッパは鳴らさない。

集合ラッパを吹くとき出陣ラッパは鳴らさない、ということは、この二つは吹き方が違うのでしょう。最初の出陣ラッパで、幕屋の東側に陣を張っている3部族が出発する。

5 二番目のラッパで南に宿営している3部族が旅立つ。これが出陣ラッパ。この、出陣ラッパは、敵が攻めてきたとき迎え撃つ、迎撃用のラッパとしても吹き鳴らされる。迎撃のラッパを吹き鳴らすとき、あなたたちの神、主の御前に覚えられて、敵から救われるであろう。

これは9節の言葉です。迎撃用のラッパを聞いて出陣するとき、主の守りを信じて戦う。主が共に戦う。だから敵を撃退できる。「敵から救われるであろう」と約束されています。

10

【奉献のラッパ】

ラッパを吹き鳴らす、最後の例は奉献のラッパです。¹⁰ また、あなたたちの喜び祝う祝日、毎月一日には、焼き尽くす献げ物や和解の献げ物に向かってラッパを吹きなさい。そうすれば、あなたたちは、あなたたちの神の御前に覚えられる。

15 喜びの日。つまり、祭りの日と、毎月一日の新月の日、献げものをする、そのとき、ラッパを吹き鳴らす。先ほど説明した、動画にあったのは、こちらのラッパであったかもしれません。人々が喜び祝っていました。神の前に喜び祝う。その喜びのラッパです。

【全軍配置】

20 ラッパを準備したうえで、今日のテキストの後半に移ります。その前に、ここで、民数記2章に記されていた、全軍の配置について、簡単にお話します。2章はこれまでの礼拝では省略しましたが、今日、説明をしておいた方がよいと思います。

イスラエルの民の人口調査が、民数記の第一章で行われました。なぜ人口調査をしたのか。人口調査は一般に、税金か、徴兵のためです。この、民数記の人口調査は、徴兵目的です。イスラエルの民を、軍隊として組織化するためになされた人口調査でした。軍隊として、部族毎に編成する。その、組織化された軍としての陣容を記したのが2章です。荒れ野で過ごす間、人々は天幕に住んで、移動しては設営し、そこに放牧したり、畑を造ったりしていたようです。その天幕を張って陣を立てるために、組織化が行われました。

30 宿営地の中央に掟の幕屋をもうけ、その東・西・南・北に、それぞれ三部族ずつ、合計12部族が天幕を張りました。その配置方法について二章の記録を見ると、こうなっています。

まず、東にユダ族が天幕を張る。12部族中最も力のあった部族です。後にこの部族からダビデが生まれました。またイエス様の出身部族でもあります。そのユダ族とほかの2つの部族が幕屋の東を守りました。主の幕屋の出入り口は東にだけありました。幕屋の出入り口をユダ族たちが固めました。モーセが人々を集めるためラッパを吹かせたとき、聞きつけて最初に駆け付けたのはユダ族でありましょう。旅立つとき、最初に出陣するのも、ユダ族でした。最強の部族を最前面に押し立てて進む。彼ら東側の三部族の後に続いて出陣するのは、南の三部族。そのあとに、臨在の幕屋と、契約の箱と礼拝道具を運ぶレビ族が続き、それから西の三部族、そして最後尾が北の三部族。と右回りの順で出陣をする。そう第二章に書かれています。

40 【シナイ出発】

そして、いよいよイスラエルの人々はシナイ山の麓を出発しました。それはエジプト脱出の月から数えて 11 第二年の第二の月の二十日のことであった。

エジプト脱出を果たしたイスラエルの民は、シナイ山の麓まで来て、そこで一年余りを過ごし、11 第二年の第二の月の二十日 シナイ山の麓から戦列を整えて出発しました。その日、掟の幕屋の上にあった雲が、幕屋を離れて昇ったからです。

【昼は雲、夜は火】

前回の旧約の学びで、9章を学びました。こうありました。

9:15 幕屋を建てた日、雲は掟の天幕である幕屋を覆った。夕方になると、それは幕屋の上であって、朝まで燃える火のように見えた。幕屋を立てた日、というのは、出エジプト記の終わりに出ています。それは、二年目が始まった最初の日です。幕屋が完成したとき、幕屋を雲が覆った。昼は雲、夜は火が燃えるように見えた。9:17 この雲が天幕を離れて昇ると、それと共にイスラエルの人々は旅立ち、雲が一つの場所にとどまると、そこに宿営した。荒れ野の旅の間、神を象徴する雲と火が、イスラエルの民を導きました。

雲が初めて昇って行ったのが今日のテキストのところです。

11 第二年の第二の月の二十日のことであった。雲は掟の幕屋を離れて昇り、12 イスラエルの人々はシナイの荒れ野を旅立った。雲はパランの荒れ野にとどまった。

いつものように、聖書の巻末の地図をご覧ください。地図2「出エジプトの道」。彼らは今まで、シナイ半島の南端近くの、シナイ山の麓に宿営しておりました。第二年目の二月二〇日、雲は幕屋を離れて昇り、パランの荒れ野に留まりました。彼らがどのようなコースをたどったか必ずしも明らかではありませんが、その道のりは目測で100kmほど。一日25kmのスピードでも4日で着きます。雲が立ち昇ったのを見て、モーセは出発を命じました。

13 彼らは、モーセを通してなされた主の命令によって、初めて旅立った。

14 まず、ユダの人々はその宿営の旗を先頭にして、部隊ごとに出発した。その隊長はアミナダブの子ナフシオン、

以下は、先ほど司会者が朗読したので省略します。長々と読んでいただきましたが、それは、壮年男子だけで60万人という大部隊の出発を、少しでも味わっていただきたいからです。正直退屈です。冗長です。けれども、彼らを詳しく知る者にとって、あるいは彼らの子孫にとって、一群れ一群れの行進に意味があります。読みにくい名前が続いていますが、その一つ一つが意味を持っています。例えば、最初の隊長、ネタンエルとは、神の賜物、という意味です。親のアミナダブは、その子の誕生を心から喜んで、神の賜物、と名付けたのでありましょう。その名が三千三百年の時を通して、今このように口にされている。不思議なことです。

運動会や高校野球の入場式。知らない子供や知らない学校ばかりなら、見ていて退屈でしょう。しかし自分の子供や孫が行進しているなら、退屈なことはありません。自分の母校が行進しているなら、興味を持って見るでありましょう。何が言いたいのか、と言いますと、神にとっては、これらの名の一つ一つが意味を持っているということです。神はこれらの一人一人を愛し、名に意味を与えて、ここに残しておられるということです。一人一人の名を解説したり、聖書の中の他の場所で、どのように記されているか、そういったことをお話するとすれば、まことに冗長な説教になるに違いありません。しかし、せめて、名を読む。そこに退屈に見える行進がはじまった、というリアリティのつもりで、長い朗読をしていただきました。

5 彼らはラッパの音を合図に行進を始めました。それぞれの部族の旗をなびかせて、家族や家畜をともなって、天幕を畳んで持ち運びながら、行進しました。東の三部族の後、神の幕屋がレビ族の手で運ばれました。それから南側の三部族。そして、掟の箱がレビ族によって運ばれ、その後、西の三部族、最後に北の三部族が続きました。こうして彼らは、次の宿営地となるパランの荒れ野に向かいました。60万の家族が目の前を通り過ぎるのに、どのくらいの時間がかかるのでしょうか。一家族一坪を占めると仮定し、100列で行進するなら、最後尾が出発するとき、最前列はすでに20kmほど進んでいます。家畜を追い、幼子や老人が一緒でありますから、20kmで一日が過ぎるでありましょう。

10 【出発】

一年余り前、奴隷であったイスラエルの民が、春分を過ぎた満月の夜、あわただしくエジプトを脱出しました。彼らはバラバラの民でした。その民をシナイ山へと導き、そのふもとに一年あまり留まる中で、神はイスラエルの民にたくさんのもを与えました。掟を与え、掟の幕屋を与え、そして何よりも、ご自身を民に与えられました。掟の幕屋にあつて、民と共に歩み、神は民の神となり、民は神の民となりました。主がご自身を与えて、民を導きました。幕屋が完成すると、人口調査をし、組織化して、陣営を整え、こうして今彼らは約束の地目指して進もうとしているのです。

【最後に】

20 私たちもまた、神の民です。主イエスキリストがご自分の血によって、私たちを神の民として買い取ってくださいました。それゆえ私たちは神の民とされ、神が共に歩んで下さいます。約束の地を目指して、歩む。ラッパの音で神の幕屋の前に集められ、ラッパの音で行進をはじめ、そして神と共にある祝いの日、ラッパの音で、喜び祝うのです。最後のラッパの音はこう吹き鳴らされます。、テサロニケの信徒への手紙一、4章14節から17節の言葉を朗読します。378頁お聞きください。パウロの見た神の啓示。

25 一テサ 4:14 イエスが死んで復活されたと、わたしたちは信じています。神は同じように、イエスを信じて眠りについた人たちをも、イエスと一緒に導き出してくださいます。15 主の言葉に基づいて次のことを伝えます。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人たちより先になることは、決してありません。16 すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降_{くだ}って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、17 それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。

30 まことに、私たちは、約束の御国を目指して旅をする民です。